

移りゆく浦安の産業

漁業で栄えた浦安のまち

浦安はその大半が埋め立て地で、今では観光地として全国的に有名です。ですが昔、浦安は漁師のまちでした。

漁業が盛んだった時代には、行商で東京都心部まで売りに行く人も多くいたそうです。現在はほとんどの漁師さんはいなくなり、埋め立てで広がった土地は都市化していますが、焼きあさりなどの食べ物や、雄大な境川は、今も浦安のシンボルとして残っています。

皆さんも、今度食卓に海産物が出てきたら、昔の浦安を思い浮かべてみてはいかがでしょうか。

●浦安の漁業

昭和46年に漁業権を全面放棄した浦安。そんな浦安にはかつて東京湾有数の漁場があり、多くの人が漁業中心の生活を送っていました。12・13歳になるとあさりなどを持って家を一軒一軒訪ねて売っていたそうです。漁業が人々の生活を支え、とても愛されていたのだと思いました。

●伝統的な投網

浦安の伝統的な投網は「細川流」という、体を回転させるように網を投げる手法です。網を広げようとすることによって、広い範囲の魚を取ることができます。この手法は遠心力をうまく使うことが重要なので、たくさん練習しないとうまく網が広がらないと思いました。



●浦安にあった魚市場

平成31年3月まで、浦安駅の近くには浦安魚市場がありました。休日は朝から一般の人たちでにぎわい、年末にはお正月の食材を買い求めるお客さんでとても混み合いました。施設の老朽化などにより、惜しまれながら閉場しました。

長屋の人々の暮らし

江戸時代の庶民はどのような所で生活していたのでしょうか。その中の一つとして長屋があります。

？ 三軒長屋とは

1棟の建物を壁で仕切り3軒分使えるようにした建物です。当時は家の中に水場がなかったため、生活用水の確保は共同の井戸に頼っていました。

人々が支え合って住んでいた長屋。現在ではあまり残っていません。ですが、郷土博物館にひっそりとたたずんでいます。その三軒長屋には、家族同然に生活していた分大切な思い出が詰まっていると思います。

大切な思い出が詰まった長屋へ、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか？



浦安の産業

浦安には鉄鋼団地と呼ばれる団地があります。

そこは浦安の鉄鋼業に関わる人たちが働いているのですが、皆さんは、まだその詳細について知らないのではないのでしょうか。鉄鋼団地その正体は浦安の歴史をたどればわかってくるのです。

工場から出た廃液などで水質汚濁が起こり、漁業権を一部放棄した浦安町(当時)では、昭和39年以降、海面埋め立てが始まりました。そしてその土地利用について、公害などが発生するおそれがない鉄鋼流通基地の誘致を計画に入れ、この計画は受け入れられました。昭和43年に第1号の会社が進出して以来、当時の都内の交通規制などに悩んでいた鋼材業者との需要と供給が合い移転が進みました。

現在、鉄鋼団地で1年間に取り扱う鉄の量は、約450万tです。

このように埋め立て地で海に面している地形と、都内から近いという立地が、浦安と鉄鋼業を結びつけたのでした。

